

道路建設事業の再評価項目調書

事業名	一般国道2号 岩国・大竹道路			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：広島県大竹市小方一丁目 至：山口県岩国市山手町				延長	9.8 km	
事業概要							
一般国道2号は、大阪市を起点とし、瀬戸内海沿岸の諸都市を連絡し、北九州市に至る延長約670kmの主要幹線道路である。 岩国・大竹道路は、一般国道2号の混雑の緩和及び交通安全の確保を図るとともに、広島県と山口県の広域的な連携・交流を図ることを目的とした延長9.8kmのバイパスである。							
H13年事業着手		H12年度都市計画決定		H15年度用地着手			
全体事業費		約1,330億円		事業進捗率 (H25年3月末現在)		約12% 供用済延長 0.0 km	
計画交通量		23,000 ~ 30,900台/日					
費用対効果 分析結果		B/C (3便益) (事業全体) 1.2 (残事業) 1.4		総費用 (残事業)/(事業全体) 803/1,004億円 (事業費：763/963億円) 維持管理費：41/41億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 1,164/1,164億円 (走行時間短縮便益：906/906億円) 走行費用減少便益：167/167億円 交通事故減少便益：91/91億円	
						基準年 平成25年	
感度分析の結果							
(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.2~1.8 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3 (事業費±10%) 事業費：B/C=1.3~1.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.2 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.3~1.6 (事業期間±20%)							
事業の効果等							
①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる【約43,596千人・時間/年⇒約42,375千人・時間/年】 ・廿日市市から岩国錦帯橋空港（共用飛行場）へのアクセス向上が見込まれる 【廿日市市役所～岩国錦帯橋空港：約46分⇒約32分】							
②物流効率化の支援 ・大竹ICから岩国港（重要港湾）へのアクセス向上が見込まれる 【大竹IC～岩国港（室の木地区）：約24分⇒約21分】							
③国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路「岩国大竹道路」の一部として位置づけ ・日常生活中心都市間を最短時間で連絡するルートを構成【岩国市役所～広島市役所：約66分⇒約54分】							
④個性ある地域の形成 ・錦帯橋（H24観光入込客数：約69万人/年）へのアクセス向上							
⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上【大竹市役所～岩国医療センター：約17分⇒約13分】							
⑥安全な生活環境の確保 ・死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間において、交通量の減少により、当該区間の安全性の向上が期待できる【三笠橋交差点：619.7件/億台キロ 等】							
⑦災害への備え ・広島岩国道路、山陽自動車道の代替路線を形成【大竹IC～岩国IC】							
⑧地球環境の保全 ・CO2排出量が約13.7千t/年（約0.6%）削減【2,420.7千t/年⇒2,407.0千t/年】							
⑨生活環境の改善・保全 ・NOx排出量が約61.3千t/年（約0.9%）削減【6,982.7千t/年⇒6,921.4千t/年】 ・SPM排出量が約4.6千t/年（約1.3%）削減【356.8千t/年⇒352.2千t/年】							
⑩その他プロジェクトとの関係 ・岩国市総合計画における「交流と連携の活発なまち」として位置づけられている（平成19年9月、岩国市）							

⑪環境への配慮を考慮した効果

・約13.7千t/年のCO2削減量の貨幣換算値【6億円※】

⑫交通事故件数の削減

・交通事故件数が約2.1%削減【5,166.3件/年⇒5,059.7件/年】

※供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）

他6項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

広島県知事の意見：

岩国・大竹道路については、一般国道2号の慢性的な交通渋滞の緩和や広島県西部と山口県東部の連携・交流機能の強化を図るため、整備を着実に進める必要があると考えている。
今後も引き続きコストの縮減に努めながら、早期の供用に向け、計画的に整備を進めていただきたい。

山口県知事の意見：

一般国道2号岩国・大竹道路の「対応方針（原案）」案に対して、異存はない。
引き続き、早期完成に向けて、コスト縮減等を考慮の上、事業の促進に努めていただきたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

H24年12月の岩国錦帯橋空港の開港により、山口県東部および広島県西部地域の空の玄関口が誕生した。
また、岩国医療センターの新築移転をはじめとして、愛宕山地域では高度医療と複合防災施設による医療防災拠点づくりに向けた各種施設の集約・整備が進められている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成25年3月末時点で用地買収については55%完了している。
一部の住民から、山手トンネル（仮称）建設に反対する意見があり協議を行っている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在は、調査設計、用地買収を行っており、早期供用を目指し、事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

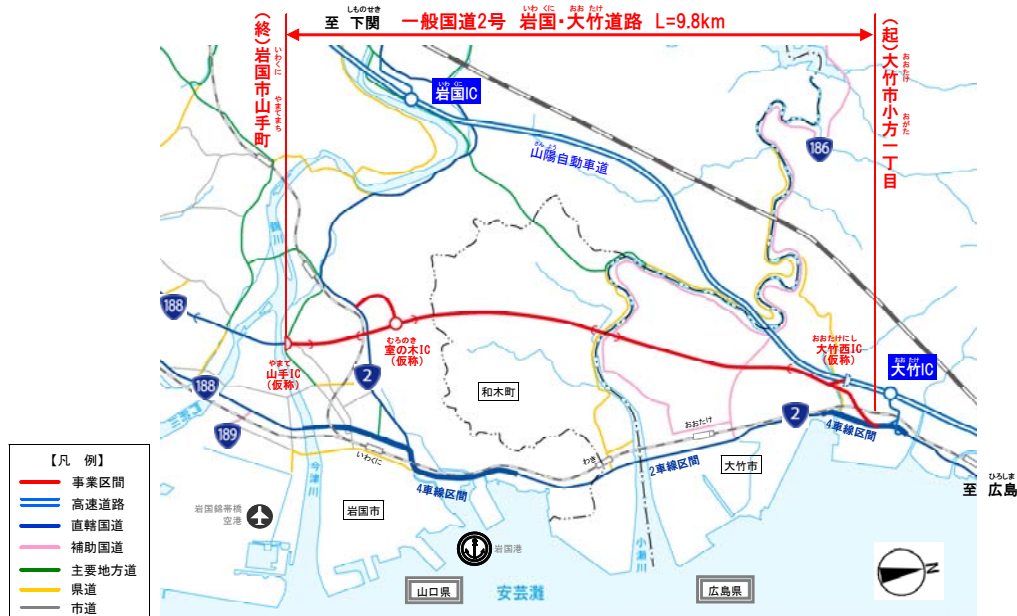
今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、事業を推進していく。

対応方針（原案） 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。